

エゾマツ



No.64 2003. 3. 28

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 新年度を迎えて 会長 川端 功治 (1)
2. サークル活動 (2)
3. 総会の案内 (3)
4. 会員の声 (4)
5. 北海道杉ティンジャー協議会とわたくし 佐々木 幸夫 (5)
6. キーワード (7)
7. アウトドア活動と天気 南部 栄一 (9)
8. スプリング・エフェメラル (11)
9. 「道民とともに考える森づくりの集い」参加報告 (12)
10. 本の紹介 (14)
11. 観察会・研修会日程 (16)
12. 編集後記 (19)

新年度を迎えて

会長 川端 功治

春もたけなわ、遠くの連山が未えあ白々と銀色に輝いていますが、間もなく緑一色に染まった野山の景色になります。その緑に新しいアイデアとして次のキャッチフレーズを付けて一大造林をスタートさせることを道が新聞に公表しました。それは「道民が消費する酸素量を試算して、それに見合った量を供給してくれる造林地の面積を計算し、年度別に植栽計画を樹立する」と言う。まことに壮、かつ大、であるが、道どころか日本は勿論地球全体の生物の生死に係わりう問題であって、事柄が巨大であり過ぎると捉えどころがなく、かえって思索がぼやけてしまう懸念があります。

かって論議された事の断片を拾ってみますと、日本は酸素の供給源が近くにあるにあって幸せであると言われました。ところが其の頼りとするシベリヤが今大変なことになっており、地球温暖化によって、シベリヤの凍土が融けだし陥没湖沼となり森林が埋没、産業用や民生用に乱伐、盗伐、失火等で実質の森林面積は激減しつつあると言うのです。

それかと思えば地球全体の大気はぐるぐると回遊しているので心配するな、その証拠にどこで空気を分析しても酸素の含有率は20%であると言う。それよりも説得力のあるのが海草の同化作用による酸素供給量は膨大であるが、全世界に発生している海岸の汚染即ち油送船の沈没、船舶の座礁等の海岸千の汚染は、海草にとって致命的であると海洋学者は警告している。

以上各種の見解や資料があっても道の大造林計画を否定するものは一つもない。

それどころか、民族の資産の増大は未来の暮らしに豊かさをもたらす為に好ましい事業であるから、道民の協力を得て事業の着実な実行を大いに期待したいと思

ます。

4月6日には、定期総会があります。総会は会員の発言の場であり、特に地方会員の発言は地方情報の提供の好機でもありますので、積極的なご意見の披瀝を期待しております。

当会は全道的な協議会でありながら、メンバーの少ない地方であっても観察会実施の名乗りを挙げて頂ければ本部から応援に馳せ参じますので宜しく起動の御検討をお願いします。

環境保全の声が次第に高まりつつあります。そのPRの為に今こそ私達の出番だと言う感じがいたします。

会友各位には健康に留意され、益々の御健闘あらんことを祈念する次第です。

サークル活動の活発化

観察会については、年間計画に沿って進めていきますが、会員の多様な考えを少しでも実現するために、サークル活動を実施していきます。

会員個々人が発信する、観察会、登山、研修会等の企画を事務局にお寄せください。発信者と具体化を相談しながら企画を広報誌「エゾマツ」に掲載していきます。

事務局 田村（札幌市東区東苗穂11条2丁目14-18 TEL011-791-0127）

5・6月のサークル活動（問い合わせは、事務局 田村まで）

- ・円山登山観察会 ゆっくり花を楽しみながら登ります。誰でも登れます。

5月15日（木）10:00~12:00 円山公園大師堂コース入口集合

- ・三角山～大倉山植物観察ハイキング 三角山から大倉山ジャンプ台スタート地点まで行きます。

6月5日（木）10:00~13:30 山の手コース入口集合 昼食用意

平成15年 第18回定期総会のご案内

会員の皆様の声を反映させる大切な場です。多くの会員の出席を期待しています。また、今回の研修会では、元円山動物園園長 金田氏の興味あるお話を予定しています。

日 時 平成15年4月12日(土) 13:00~17:00

場 所 かねてる2・7 810号(札幌市中央区北3条西7丁目)

日 程 ・受 付 13:00~

・研 修 会 13:30~14:40

講師 元円山動物園園長 金田 寿夫 氏

・総 会 15:00~16:30

《総会終了後》

・懇 親 会 17:00~ 会費3500円

会場 うおや一丁

(札幌市中央区南1条西6丁目北辰ビル地下1F)

総会議題 ・平成14年度事業報告並びに収支決算報告
・平成15年度授業計画(案)並びに収支予算(案)
・その他

お願い ・多くの会員の出席をお願いいたします。事務局に都合で出席できない旨の報告をされた方でも、当日の都合がついたかたは是非出席ください。
・当日、新年度の会費を納入される方は受付ますので、ご協力をお願いいたします。後日振替用紙を同封いたしますので、その際を会費納入されても結構です。
・総会についてのお問い合わせは、事務局田村までお願いいたします。(TEL011-791-0127)

会員の声

帯広市 小野寺 実

十勝は広大な平地の故か、わりと自然が残っていない。農村の学校の囲りは畑と牧場のみで、自然観察にこと欠く現状。少ないながらもわずかに残っている貴重な自然が破壊の危機を受けている。エゾサンショウウオの棲む弥生の森を横断する道路工事。野鳥の楽園の十勝川の河川敷のパークゴルフ場化。道内でも第1級の海岸植物のあるトイトッキ海岸も工事目前である。後生に貴重な自然を残したいと緑を愛する仲間て声を大きくして住民に訴えている現状。啓蒙の大きさを痛感している。

丸瀬布町 佐野 亮二

ボラレンオホーツク支部の14年度秋期講習会が9月21～22日、北見市若松自然休養林で開催され、札幌はじめ各地から多くの仲間に参加していただき無事終了することができました。参加者・関係者の皆様に誌上をおかりしてお礼申し上げます。

樹齢70年、高さ30mのアカエゾマツの植林地、青春期の樹を見上げ時の流れと自然環境の大切さを知りました。懇親会では、浜清水原生花園での会員の活動が報告され身近に力強い風を感じ、明日への活動の糧になりました。今後共ご指導よろしく願い申し上げます。

北海道ボランティア・レンジャー協議会とわたくし

札幌市厚別区 佐々木 幸 夫

協議会の会員になって15年目を迎え、年齢も72歳になりました。いまさらながら、過去を顧りみてその歳月の流れの早さを痛感しているこの頃です。

最新の会員名簿を見ますと、第1回育成研修会受講の先輩会員が8名もおられ、敬服の念しきりで、設立当初の会員として実に18年の協議会の経年変化をお聞きする機会があってよいのでは、と思いますし、また、協議会として永年会員の皆さんに何らかの形で、感謝の念を表してよいのでないだろうかとも思っていますが、執行部の皆さんのお考えは如何なものでしょうか。

最近、何かしら北海道ボランティア・レンジャー協議会の顔があまり見えてこないような気がします、何故でしょう。

北海道では当初500名のボランティアレンジャー（自然解説員）を育成するとのことでしたが、現時点でいくら育成されているのでしょうか。時の流れですから、天国に召されたり、病床に臥したり、身体に不自由が生じたり、北海道から他に移転したり、などなどの理由で、育成された数通りではないことは承知していますが、会員名簿を見ると会員数が何か頭打ちになっているようにも思われます。

会員の数があながち多ければ良いというものでもないのですが、さして会員数が増えないその理由は何でしょう。

世の中ですから、いろいろな意見が有るのは当然ですが、会員としてしなければならないこともあるでしょう。いまいち、会員の積極性も問われる時期にきているようにも思います。

こんななかで、役員ของ皆さんのご活躍に感謝しておりますが、協議会主催の自然観察会に参加させていただいても、何かしら物足りなさを感じます。

あくまでも、ボランティア活動ですから、役員の皆さんが常に先頭にたって物事を仕切る

る必要がないように思っていますが、何かしら情報不足の感じがしてなりません。

協議会という組織に、会員として加入し、その目的達成のため各人のそれなりの努力が必要ですが、活動しやすい状態にしてくれるのが組織です。執行部=役員のみさんは、何かと大変でしょうが、会員から負託されているのですから、それなりに意識した行動が大切です。総会も近づいて来ましたので、その場で多めに議論したいものです。

さて、数年前に「シダ植物」の勉強会を野幌森林公園で実施したのですが、本年は同じ野幌森林公園で、さっぽろ自然調査館丹羽主任技師を講師に8月3日(日)10:00~14:00の予定で、「イネ科」と「カヤツリグサ科」についての勉強会を実施したいと思っています。このことに関心があり、参加ご希望でしたら、わたくしあてご連絡ください。

めっきり、春の息吹が強く感じられ、気が漲ってきます。健康に留意され会員各位のさらなるボランティア活動を期待します。

(2003.3.14 記)

(〒 004-0004 札幌市厚別区厚別東4条8丁目4-20 ☎ (011)898-8177)



キーワード



地球の温暖化

地球の温度は、太陽から流れ込む日射エネルギーと、地球自体が宇宙に向けて出す熱放射とのバランスによって決まります。太陽から流入する日射は大気を素通りして、地表面で吸収されます。日射を吸収して加熱された地表面からは赤外線が熱放射されますが、大気中には赤外線放射を吸収する「温室効果ガス」と呼ばれるガスがあり、地表面からの熱を吸収してしまいます。吸収された熱の一部は下向きに放射されるため、地表はより高い温度となり、これを「温室効果」といいます。

地球の温暖化とは、人類の活動の拡大に伴う温室効果ガスの排出量の増大により温室効果ガスの大気中の濃度が高まり「温室効果」が強められ、地表面の温度が気候の自然の変動に加えて上昇することです。その結果、海水の膨張や南極の氷の融解に伴う海面上昇や、気候メカニズムの変化や異常気象の頻発などが起こる恐れがあるとされ、人類にとって非常に大きな影響を及ぼす問題であります。

温室効果ガスとして、第一にあげられるのが二酸化炭素ですが（ほかにメタン、亜酸化窒素、フロンなどがあります）大気中の二酸化炭素濃度の変化を見ると、昭和33年に0.0315%であったものが、最近では0.036%とここ40年の間に14%も増えています。二酸化炭素の濃度が倍になると気温は4度上昇するといわれています。

気温が上昇すると、地球上に色々な影響がでてきます。砂漠が拡大したり、伝染病が爆発的に増えたりしますが、一番の影響は南極の氷が融けたことです。北極の氷は海に浮いているので、融けても海面が上昇することはありません。南極の氷は陸地の上にあるので、融けると海の水は増えてしまいます。南極の氷が全て融けると海面は60mほど上昇するといわれています。気温上昇が4度くらいであれば上昇するのは1mから3mくらいになるそうです。たとえ1mであっても海拔の低

い土地は、台風がくればひとたまりもありません。

このように気温上昇を引き起こす原因の二酸化炭素の増大は、化石燃料と森林消失にあると言われています。

化石燃料の石油や石炭はご存じのように、微生物や樹木が地中に閉じ込められてきたものですが、私達の日常生活や経済活動による燃料としての使用が二酸化炭素を発生させてしまいます。

森林消失ということは、樹木の光合成と関係があります。樹木の葉は、光を受け水と二酸化炭素から糖を作りだし、酸素を放出します。このように樹木は大気中の二酸化炭素を吸収固定させ、大気中の二酸化炭素を減らす働きがあるので、森林消失は大きな問題なのです。

今年の2月22日付の北海道新聞朝刊に「CO₂吸収、北海道シェア24%」の見出しがでていました。地球温暖化をもたらす二酸化炭素を国内の森林がどれほど吸収できるのかを独立法人の森林総合研究所の北海道支社が試算した結果では、北海道の森林の二酸化炭素の吸収量は全国の4分の1を占め大きな役割を果たしていることがわかりました。それによると、日本の森林の二酸化炭素吸収量は4100万トンで、うち北海道分は964万トンであり、前項に占める道内の割合は24%で、森林面積での全国比22%を上回ったそうです。この理由はカラマツなどの北方樹林は、カシ、シイなどの南方樹林より二酸化炭素吸収力があるためだと説明しています。

日本は2008~2012年の5年間の平均の二酸化炭素排出量を1990年時点のくらべ6%削減することを国際的に約束しています。ですからこれらの削減は森林の吸収によって達成する必要があるのです。また、二酸化炭素の削減は森林の吸収力に依存するだけでなく実際に放出する量を減らす努力も必要なことは言うまでもありません。

アウトドア活動と天気

富良野市 南部 栄 一

一般的には、中国大陸に高気圧が発生し、それが東に向って移動すれば天気は良くなり、逆に低気圧が発生すると下り坂となると思っています。

雨や雪は野山歩きや観察会には歓迎されませんが、四季折々の美しい風景や自然の様々な営みも天候に左右され、変化していくものだということも、自然を愛する私達は忘れてはいけません。

自分の場合定時のラジオの天気予報と更に雲を見、風を感じ、景色、色々な現象の変化、動植物の様子等に敏感になる事で、天気の行方が見えてこないか考えています。

先ず、平地は晴れているのに山の天気だけが急に悪くなる時は温暖前線の接近が考えられ、山では6～10時間も早く天気が崩れる。そして、この場合、晴れていても西の空に厚みのある雲がある。

寒冷前線が近づいてくる場合、これも上空が晴れていても、急に雨が降り始める。

この場合、西の空に雲が一直線に並んでいるように見えるのが特徴です。但し、雲の様子を見るだけでなく、ラジオの予報を聞き簡単な天気図を作成。そして空に見える雲が前線の影響によるものか照らし合わせてみれば、今後の天気変化をより正確に知ることが出来ると思っています。

更に、自分は野山では、

①気温は100m登る毎に0.6度ずつ下がる。

②雨量や風は平地より多く強い。

③午後は上昇気流で雲が出やすい。平地より天候の変化が激しい。

をインプットして判断します。加えて、観天望気をより参考にし判断基準にしています。これには何処にても該当するものとして、

①夏、雲が東から西に流れると晴天が続く。

②南風は雨、北風は晴れ。

- ③夜寒いと明日は晴れ、早朝暖かさを感じたら雨。
- ④白い雲は晴れ、黒い雲は雨。
- ⑤うるこ雲が出ると天気は下り坂。
- ⑥レンズ雲は風強く悪天に向う。
- ⑦山に笠雲がかかると雨、分裂し始めると晴れ。
- ⑧飛行機雲がすぐに消えると晴れ、その幅が広がると下り坂。
- ⑨粉雪は積もるが、ボタン雪はすぐ止む。
- ⑩夜霧が出ると明日は晴れ。
- ⑪山が近くに見える時は雨が近く、ぼやけて見える時は晴れ。
- ⑫朝焼けは雨、夕焼けは晴れ。
- ⑬日傘は雨傘、月傘は日傘。
- ⑭星の瞬きが激しいと雨。
- ⑮遠い物音がよく聞こえると雨。
- ⑯朝もやは晴れ。
- ⑰クモの巢に朝露がかかると晴れ。
- ⑱タンポポの花がしぼむと雨。等など参考にしています。

次に自分がよく行く富良野を中心とする観天望気としては、

- ①芦別岳に雲がかかると雨。
- ②晴れた夕方、夕張岳に白雲がかかると雨。
- ③十勝岳、旭岳の噴煙が北西になびいていると晴れ。
- ④上ホロカメトック山から雲が下降してくると雨。
- ⑤エゾ雷鳥がたわむれると、間もなく風雨となる。

以上ですが、自分は明日の今日の山行、野山歩きの際、実際の行動とは別にあれこれ想像して楽しんでいます。全道に会員のいるボラレンで観天望気マップでも作成したら面白く、大変な参考資料になるのではと思っています。

スプリング・エフェメラル

雪解けを待ち望んでいたかのように可憐な花をつける野草がります。これらの野草は樹木の葉が茂る前のわずかな期間の春の陽光で発芽、成長、開花、結実のサイクルを終えます。このような春の短期間だけ地上生活を営む植物をスプリング・エフェメラル（春のはかない生命）と呼んでいます。

・キバナノアマナ

ユリ科の多年草で昔どおりチューリップ属に分類する学者もいます。地中の鱗茎（球根）から1枚の根生葉と2枚の包葉をもつ花茎を出し、これがワンセットとなっていていいです。6枚の花弁からなっています。

・カタクリ

花びらは6枚ですが、多少細めの3枚が本来の花びらで、残りは萼片にあたります。晴天時は朝日を受けて開き、夕暮れに閉じる運動をくりかえしますが、雨や曇りの日には開きません。地上にでている部分の寿命は短く、わずか2カ月ほどで解けるように消え去り、地下部だけの休眠生活にはいります。

・ニリンソウ

キンポウゲ科の多年草でアネモネ（Anemone）属、ギリシャ語起源の属名は「風の小娘」という意味で、春風にゆれている様はまさにその通りです。

ふつう1本の茎に花を2個つけるため二輪草の名がついたが、一花、ときには三花以上のときもあります。先の花が高くのびて咲きはじめるとき、もう一個はまだ苞葉の近くでつぼみのままです。方言のコモチバナ（子持ち花）、コモチグサはこの様子を表したものです。

・フクジュソウ

キンポウゲ科の多年草で、アドニス属。ギリシャ神話に登場する美少年アドニスにちなんで命名されました。地下茎とひげ根は漢方で強心剤に利用されますが、有毒成分が強いので要注意です。

「道民とともに考える森づくりの集い」参加報告

事務局 田村 允郁

豊かな北海道の森林を次の世代に引き継ぐため、森に関わっている、あるいは森に関心のある道民と林業関係者、行政職員が集まり森林に関する様々な情報の発信や交換を通じて、新たな森づくりに向けてともに考え行動できるよう、多くの人達が互いに情報交換する場として「道民とともに考える森づくりの集い」が、1月26日（日）かてる2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）でおこなわれました。主催者の同水産林務部森林活用課から本会に昨年に引き続いて参加してほしい旨の依頼があり参加することにしました。

参加した分野はポスターセッション（ポスターを使って森の情報発信を発表）とトークセッション（分科会各に討議）の話題提供を引き受ける事にしました。

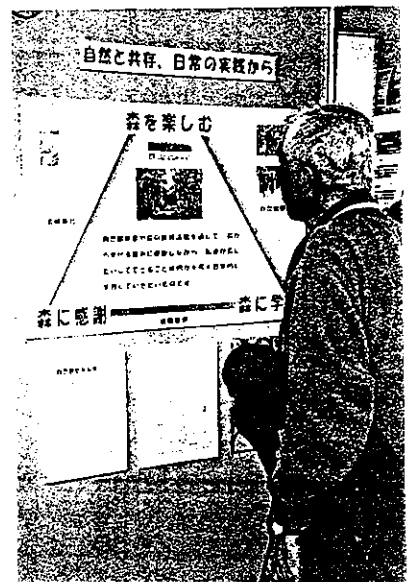
テーマは「森に親しむ」を選択し、ボランティア・レンジャー協議会の日常実践をポスターと発表の趣旨としましたが、参加して幾つかの感想を持ちました。

ポスターセッションについては、森業に携わる団体が多く、技術発表会の様相で、参会者もその関係者とサポーターで、私達のようなボランティア団体へ目を向けてくれる雰囲気ではありませんでした。毎年行われている企画と聞いていますので、同じテーマ・類似している団体各に会場設定することが望ましいのではどの感想を持ちました。

トークセッションの時間は1時間の設定でした。

その中で、話題提供（3人）とその後の討議は話し合いが十分ではなく未消化となりました。

このイベントは1日の日程としては多くの内容が盛り込まれていて、じっくりと深めていくのは無理のような気がしました。しかし、次年度も依頼されたら、本会の主張を発信するよい機会ととらえ、準備もしっかりして参加していくことが大切だと思います。



森との共生と自然観察会

(道民とともに考える森づくりの集いレポート 文責 事務局 田村)

「環境保全型社会」の実現ということがよく言われています。環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会にむけ、多方面からの実践が求められているこの言葉は、私たち一人ひとりが環境の保全にでき得る知恵をしぼり、実践化していくことです。自然を愛し、森に親しむことは、心のゆとりや安らぎの中で環境を保全するとはどうゆう事なのかを改めて考えるきっかけになります。

自然観察会のボランティア活動や奉仕活動を行っている本会は、これらの実践活動を通して、環境に対する豊かな感受性や環境に対して責任ある行動をとることへの啓発活動を行っています。そして、このことが、自然観察会を通じて環境保全型社会の実現にむけての一つのアプローチだと考え実践してきました。

みどり溢れる森の中での観察会は、うるおいや安らぎを私たちに与えてくれます。近年森の豊かな環境の重要性が見直され、人々の意識も変わり、観察会の参加者も徐々に増えています。また、森の清掃奉仕活動への協力も徐々に浸透してきました。行政機関もこれらの活動に理解や協力をしてくれたり、森を木材生産を中心としたものから公益的機能の維持の方向へ進んでいることは大変喜ばしいことです。

しかし一方では、まだまだみどりの森への関心とその重要性の意識が人々の間に浸透しているとは言いがたい側面があります。「森林環境に関する住民意識の国際比較研究」というデータを見ると、最も行きたい旅行先との問いに、ヨーロッパの各国では一番に「深い森」と答えるのに対し、日本では「古い寺院」・「静かな湖」・「見晴らしのよい山」を最初に答えています。観光地めぐりの考えからの脱却は、森と向き合い、自然環境のあり方を考えるきっかけにもなります。

豊かな森が私たち人間を受け入れてくれるさまざまな機能を身をもって知ってもらう機会として観察会を位置付け、北海道ボランティア・レンジャー協議会（道、自然環境課の育成研修修了者で組織している会）は過去16年活動してきました。この活動は生涯学習の観点からも、これからの社会に受け入れられるものと考えています。観察会の形態も、野草や樹木の名を知る受け身の観察会から、参加者自らが能動的に活動する観察会や森を守る活動も取り入れる工夫をして行かねばと考えています。試みとして、春と秋にはゴミ拾いを兼ねた観察会を企画し、忘れがちな奉仕活動を通し、森の恵みに感謝する活動に広げつつあります。また、健康増進も兼ねたエコ・ハイキングもこれからの企画としてとりあげようと考えています。このような観察会は必ずや、人々が豊かな森への必要性を感じてもらえるものと確信しています。

最近、森を対象とした観察会を行っているボランティア団体が各地に組織されていますし、活動も多岐にわたっています。各組織が切磋琢磨して、森の豊かさと恵みを体感できる企画運営を行えば、参加者の輪も広がっていき、森を通した環境保全の意識も芽生えることでしょう。こんな希望と期待を持ちながら「地球規模で考え、足下から行動を」

(Think Globally, Act Locally) の言葉を掲げ所に、自然観察会を通して環境保全活動に取り組んでいきたいと考えています。



矢部 三雄 著

森の力

日本列島は森林博物館だ！

講談社 2002. 9. 20 発行

定価 880円（税別）

「ソノナワワッカ ベデナイジャシシキショトラ ブタレルゾ」

これは、北海道富良野市在住のシナリオライター倉本聰氏の著書「ニングル」の中で、北の森の住人ニングルが口ずさむ歌の詞です。ニングルとは、富良野山麓の森に生息する体長15センチメートルほどの実在すると信じられている小人のことです。歌詞の中で、ワッカとべは、ともにアイヌ語で水のことですが、ワッカは飲むことのできる水、べは飲むことができない水を意味しているそうです。また、最初のナは、水の流れを意味しています。つまり、この歌詞は「その水の流れは飲める水であり、飲めない水ではない。シシキ（小便）をしたらぶたれるぞ」ということになります。ニングルたちは、水の大切さをこの歌によって子孫に伝えています。

また、彼らは水の源が森林であることを体験的に知っており、自分たちが住む森林が破壊されそうになると、この歌を歌うことによって「森が失われると水も涸れ、生きていけなくなるぞ」と警告するそうです。……

上記は、第2章「驚くべき森林の力」の中に出てくる一節です。

一般的に森林の効用は次の4つにわけられるといます。

1. 環境形成効果（気候緩和、大気浄化、水保全）
2. 災害防止効果（浸食防止、自然災害防止、防火、防音）
3. 生物保全効果（生物種保全、環境指標）
4. 心理・文化効果（快適性、保健休養、教養・教育）

森や山の中を歩くと、この4つの効用に関連して、「〇〇保安林」という看板を目にすることがあります。保安林には、水源を守り水を蓄える「水源かん養保安林」

「土砂流出防備保安林」「魚つき保安林」など17種があるといます。そして、保安林は全国の森林面積の三分の一にあたる900万㊦にも及んでいて、その三分の二は「水源かん養保安林」が占めていますので、そのはたらきの重要性がうかがい知れますし、それは、雨量と森林のメカニズムにある言えます。

空から降ってきた雨は森林がなければ、直ちに地表を流れ、濁流となり川に流れこみます。一方森林に降った雨はその大部分は樹冠に当たります。樹冠は枝・葉の集合体で、その合計表面積は森林の土面積の何倍もあります。落葉広葉樹林の場合、葉の面積だけでも土地面積の3～6倍あるといわれています。森林に降り注ぐ雨の多くは直接地面に落ちず樹木をクッションとして森林がつくったふかふかな土にしみこみ、蓄えられ土の中をゆっくりと流れ地下水となり、徐々に地表や川に流れ出てきます。この働きこそ、私達が利用することのできる水を大幅に増やしてくれているのです。森林が「緑のダム」と呼ばれる所以はここにあります。

近年、森林は、木材生産林から公益機能を持つ森林との考えかたに変わってきています。私たち人間も含めて、地球上に棲む生物全てが森林の豊かさの中でこそ持続的な生存が可能なのです。ですから、豊かな森林を子孫に残していくことが今に生きる私達の課題なのでしょう。

著者の矢部三雄は森林を次のように展望しています。

……人々の生活においても、ごく普通に森林と触れあうことの時間が増加し、家族のきずな、地域のコミュニティを形成する上においても、森林空間の活用が大きな役割をもつようになっていきます。また、森林をフィールドとした学校教育科目が定着し、情操教育の中心的存在となるでしょう。このように21世紀の社会においては、国内の森林や木材に対する評価が高まり、地球環境と共存し得る循環型社会の確立が進んでいるに違いありません。

平成15年度 観察会・研修会日程

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考
4	4月の森の観察会	15. 4. 17(木)10:00~12:00	4. 10 10:00	開拓記念館	協力
5	春のありがとう観察会	15. 5. 11(日)10:00~14:30	5. 10 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	恵庭公園観察会	15. 5. 25(日)10:00~12:00	5. 24 10:00	恵庭公園駐車場	
6	野幌自然観察会	15. 6. 8(日)10:00~12:00	6. 7 10:00	森の自然教室	協力
	黒松内ブナ林研修会	15. 6. 14~15		黒松内	会員研修
7	富良野観察会	15. 7. 5~6		三段山	会員研修
	7月の森の観察会	15. 7. 17(木)10:00~12:00	7. 10 10:00	開拓記念館	協力
8	夏の森の観察会	15. 8. 10(日)10:00~14:30	8. 9 10:00	交流館(大沢口)、	協力・昼食持参
	別海自然観察会	15. 8. 31(日)		野付半島	
9	9月の森の観察会	15. 9. 18(木)10:00~12:00	9. 11 10:00	開拓記念館	協力
	北見観察会	15. 9. 21(日)		北見市	オホーツク支部主催
10	利根別自然観察会	15. 10. 5(日)10:00~12:00	10. 4 10:00	大正池駐車場	
	秋の森の観察会	15. 10. 19(日)10:00~14:30	10. 18 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
11	秋のありがとう観察会	15. 11. 9(日)10:00~14:30	11. 8 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
12	12月の森の観察会	15. 12. 18(木)10:00~12:00	12. 11 10:00	開拓記念館	協力
1	円山ツボ足登山観察会	16. 1. 18(日)10:00~12:00	1. 19 10:00	円山登山口	
2	冬の森の観察会	16. 2. 8(日)10:00~14:30	2. 7 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
3	早春の森の観察会 —観察会と報告会—	16. 3. 14(日)10:00~13:30	3. 13 10:00	交流館(大沢口)	協力・研修

2003年度小樽支部自然観察会の計画
(北海道ボランティア・レンジャー協議会、小樽支部)

No.	月/日(曜日)	行き先	目玉	集合場所、時間
1	4/26(土)	赤岩山～オタモオイ海岸、	春植物、	赤岩2丁目バス停前、9時、
2	5/17 "	天狗山～穴滝、	春の花、野鳥、	天狗山頂、リス公園前9時30
3	6/7 "	オロフレ山、(要自家用車)	シラネアオイ他	オロフレ駐車場、9時30分
4	6/28 "	羊蹄山(真狩口、要自家用車)	高山植物、	真狩口最奥駐車場、6時30分
5	7/19 "	雨竜沼(貸切バスの予定)	湿原植物、	妙見川が-下国道路、6時
6	9/27 "	塩谷丸山	初秋の草花、	JR塩谷駅前駐車場8時30分
7	10/11 "	天狗山～穴滝(兼、ゴミ拾い)	紅葉と樹木、	天狗山頂リス公園前9時30分
8	11/8 "	小樽市有林、後、納会、	晩秋の装、	生協みどり店前東側入り口9時
9	2/14 "	天狗山～オコバチ川、	山スキー、	天狗山アフリト乗り場9時30
10	3/27 "	塩谷丸山、	カンジキ歩き、	JR塩谷駅前駐車場前8時30

- 参考：1、約1週間前に新聞(道新小樽版、読売金曜日夕刊)に集合場所、時間等再掲の予定
 2、天候外の都合で、日時等変更する事がありますから、事前に申し込みねがいます、
 3、参加料は、1人300円です。貸切バスは実費、(当日受け付けにて)
 4、自家用車の方は、事前に連絡願います。(駐車場の状況、乗り合せの可否等)
 5、申し込み、問い合わせ等は、0134-27-1701北原迄、

黒松内ブナ林研修会

歌オブナ林は北限のブナ林として有名です。研修には絶好の時期ですのでご参加ください。

日 時 平成15年6月14日(土)～15日(日)

宿泊場所 歌オ自然の家(黒松内町字黒松内584 TEL01367-2-3010)

費用 7000円(宿泊3000円、食事2940円、懇親会費1000円、研修室使用料60円)

日 程 14日 13:00 歌オ自然の家集合 17:00まで研修
15日 12時まで研修 その後解散

その他 公共交通機関を利用の方は相談ください。詳細は参加者に連絡します。

連絡先 事務局(田村允郁 札幌市東区東苗穂11条2丁目14-18 TEL011-791-0127)

富良野の研修会

7月の富良野は、花の季節です。十勝岳連山を望ながら楽しい研修を進めます。登山の用意が必要です。

日 時 平成15年7月5日(土)～6日(日)

宿泊場所 吹上温泉保養センター 白銀荘(0167-45-4126)

費用 5000円程度

日 程 5日 13:00 白銀荘受付 17:00まで研修 その後食事準備 交通
6日 三段山登山 下山後解散

その他 公共交通機関を利用の方上富良野駅前集合。バス代490円
詳細については連絡先へ。

連絡先 研修部長(小林英世 恵庭市恵み野東5丁目3-1 TEL0123-36-3944)

事務局(田村允郁 札幌市東区東苗穂11条2丁目14-18 TEL011-791-0127)

編集後記

- ◆森の中に入ると、ヤナギ類の花芽が目立ってきました。地方によってはフクジュソウも咲きだしたところもあるでしょう。雪解けの森を歩き、胸いっぱいの空気を吸う季節です。
- ◆平成15年度の観察会計画を提示いたしました。今年は黒松内での研修会も予定しています。充実した活動で会員相互の研修と親睦を図っていきましょう。
- ◆平成14年度の反省と新年度の活動計画を協議する総会が4月6日に開催されます。多くの会員の参加によって本会の発展のための知恵を出し合いましょう。都合で欠席連絡をされた方も、当日都合がつけば是非ご出席ください。
- ◆今年度より、個々の会員の活動の呼び掛けをお受けします。観察会や登山の呼び掛けでサークル活動を活発化させましょう。連絡は事務局田村（TEL791-0127）まで。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」No.64 2003. 3. 28 発行
発行責任者 川 端 功 治

表紙絵

カタクリは沖縄を除く日本列島のほとんどの分布していて東の方ほど分布が多くなる傾向があります。ほかの野草と比べると地上にでている部分の寿命が短く、わずか2ヵ月ほどで融けるように消え去り地下部分だけの休眠に入ります。カタクリの語源についてはでんぷんに富む球根（片栗）とする説、葉の鹿の子模様由来するカタカゴ（片鹿子）から転訛説までさまざまです。